

【名 前】 二井矢清香 (にいや きよか)

【担当領域】 基礎看護学

【研究テーマ】 患者教育に関する研究，経験型実習教育

【研究活動】

研究テーマに応じて、研究活動は大きく分けて2種類です。1つは、患者教育に関する研究です。具体的には、患者教育の歴史研究です。患者教育は、伝統的に固着してきた“医師のもとで行う知識の提供”という見解を排し、看護の専門的な援助として方法論の開発が積み重ねられてきました。つまり看護の歴史的な所産といえます。この成果は、日本看護科学会誌(2011)、日本看護医療学会雑誌(2012)、日本看護研究学会雑誌(2014)、日本看護学教育学会誌(2014)などの看護学会誌に掲載されており、全国の看護職者や患者教育研究者から高い評価を得ています。また、日本オストミー協会広島県呉支部のオストメイト(患者会)と呉市内の皮膚排泄ケア認定看護師9名と共にオストミービジター養成研修会を実施しています。患者会－医療機関－大学が連携した生涯学習によって、広島県に初めて8名のオストミービジターを誕生させ、現在、呉市内の病院で活動しています。2つめの研究活動は、学生教育に関する研究です。私は、安酸史子先生(元福岡県立大学看護学部長/現防衛医科大学校教授)の経験型実習教育のプロジェクトチームの一員として活動しています。経験型教育とは、従来のような指導型の教育方法ではなく、学生の経験を教材化しながら自己教育力を高めていく援助型の教育方法です。この成果は、『成人看護学概論』(メディカ出版)、『セルフマネジメント』(メディカ出版)、『経験型実習教育』(医学書院)に掲載されています。

【学生へのメッセージ】

看護は、看護だけ見ていると、看護は見えません。看護は、時代や政治、文化と複雑に絡み合っています。看護が人間を対象とする学問である以上、自然科学的な視点のみならず、人文科学や社会科学の視点から追求することも必要です。とくに基礎看護学は、看護理論をはじめとする看護観、歴史観、人間観などを土台とする学問領域です。だからこそ、文献研究を基盤とします。たとえば、「看護とは何か」という問いに対して「看護とは～である」という応えは、看護のひとつの属性(性質)にしかすぎず、そこに人間そのものが立ち現れることはありません。看護をどのようにみるかは、人間を描き表現できる人文科学や社会科学の文献研究が不可欠です。つまり文献研究は、「How to」よりも「Why」という問いを基本とし、綿密な史資料購読と分析力を必要とします。すぐに答を出すことばかりにとらわれず、「看護とは何か」「人間はどう生きるべきか」そうした根源的な問いに対して自分の目で確認したり頭と足で検証してみることが、学問の本質だと私は思います。

【自己紹介】

典型的な九州女。

一本気で逞しい酒豪の九州男を支えてきた九州女には“気が強い”“苦勞人”という地域性があります。その中で育ったためか、とにかく、信念がない二転三転する人の言うことをそのまま聞いて流されていくのが大嫌い。ビジョンをもちながら努力を続ける少数派の人たちにシンパシーを感じています。看護学研究でも、新たな時代に、新たな看護や教育を切り開いていった看護職者や患者に興味をもち、研究対象にしています。